地区名：大野地区
実施主体：大野市各種団体連絡協議会

1　基本データ

○地区人口　　13,330 人　(H31.4.1 現在)
○世帯数　　　5,172 世帯
○行政区数　　73 行政区
○面積　　　　約 6.3 平方キロメートル
○地区の沿革

大野地区は、大野盆地の北西部の平坦地に位置し、東は上庄地区、南は小山地区と上庄地区、西は乾側地区と小山地区、北は下庄地区に接し、政治・経済ともに大野市の中心である。

古代より中世初期にかけては、政治経済の中心は小山地区や乾側地区にあり、大野地区は荒涼とした原野に数村が所在していたと考えられている。

中世中期には、亥山城（現在の日吉神社付近）の周辺に小規模な城下町が形成されていたが、今から 400 年以上前、天正期に金森長近が大野城を築城し、新しく建設した城下町が、大野地区中心部の街区や用排水路の原型となっている。

亀山の頂に建つ越前大野城

明治 4 年の廃藩置県により大野藩は大野県となったが、その年のうちに福井県、足羽県とめまぐるしく変わった。県名はその後も明治 6 年に敦賀県、明治 9 年に石川県と変遷したが、明治 14 年に再び福井県となり現在に至っている。

足羽県地理誌によると、廃藩置県当時の大野地区は戸数 2,083 戸、人口 9,052 人であった。

明治 22 年の町村制施行により、5 つの小区がまとまって大野町が誕生した。大野町は、昭和 29 年の町村合併により大野市の一地区となっている。

亀山から見た市街地

2　現状と課題

大野地区は 73 の行政区から成り、地理的用件や歴史的背景から大きく 6 つの地区に分かれている。

まちづくりや地域づくりの取り組みは大野地区全体だけでなく、各地区において、それぞれ地域性を反映し進められている。

そのため大野地区全体で、ひとつの共通の目標を掲げ取り組むことについては、難しいのが実情となっている。

3　事業の内容

本年度も昨年と同様に、大野地区各種団体連絡協議会において交付金の活用方法を検討し実践することとなった。

大野地区各種団体連絡協議会構成団体

［大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野地区体育協会、大野長生会、大野地区子ども会育成会連絡協議会、大野地区社会福祉協議会］

大野地区各種団体連絡協議会において話し合いを行い、本年度は大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野長生会が事業に取り組むこととなった。

大野地区区長会については、第 1 地区、第 2 地区及び第 5 地区からそれぞれの課題解決に活用したいとの声が上がり、3 団体が事業に取り組むこととなった。

【第 1 地区】

『南っこイルミネーション』

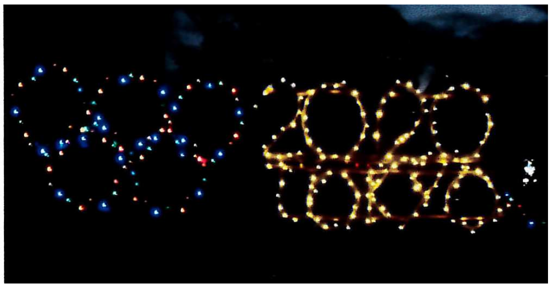
第 1 地区では、有終南小学校の周囲をイルミネーションで飾り、にぎわいを創出する事業を行った。

南っこイルミネーション

本事業は昨年に引き続き行うもので、昨年度は学校西側の道路に面したフェンスを飾り付けたが、本年度は、フェンスだけでなく正面玄関前の植え込みまで規模を拡大し、フェンスから一連となって電飾を飾り付けることとした。

玄関前の植え込みの木をクリスマスツリーのように見立てるため、高所作業車を活用して電飾を纏わせるなど、立体的なイルミネーションを作成した。

また、東京オリンピックに合わせ、そのロゴマークを配するなどの工夫を行い、10 月 14 日から点灯を開始、12 月 25 日までを点灯期間とした。



オリンピックロゴの LED

事業にあたっては、有終南小学校をはじめ各関係団体へと協力を呼びかけ、有終南小学校ＰＴＡ、区長会、まちづくり委員会が協力し設置作業を行う予定であったが、台風の影響により中止となった。

点灯初日に行った点灯式には、近隣からおよそ 100 人の住民が集まったほか、市長や市議会議員を来賓として招き、第 1 地区の取り組みを広くアピールすることとなった。

地域住民が集った点灯式

この事業を通して住民同士や世代間での交流が図られ、点灯期間いっぱいまで地域のにぎわい創出に貢献できた。

【第 2 地区】

『地域力アップ（向上）事業』

第 2 地区の多くの単位区において、人口減少、高齢化率の上昇等で地域力が低下している傾向にあることから、第 2 地区内の各区が住民参加型の行事等を行い、それぞれの単位区の実情の把握等を通じて、地域力アップのため、既存事業から一層の展開を図るべく事業を行った。

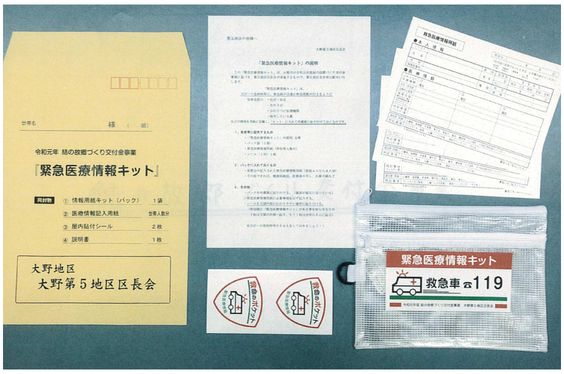
落語を鑑賞

8 月 3 日から地区内で行われている夏祭りなどについては、コミュニケーションを強化するためにオカリナ演奏や落語の鑑賞などを行うことにより住民参加を促進した。また、10 月 3 日には防災力強化に向けた防災訓練を行うなど、課題解決に向けたさまざまな取り組みがなされ、合計 720 人を超える参加があり地域力の向上を図った。

【第 5 地区】

『「命のポケット」による緊急連絡の迅速化』

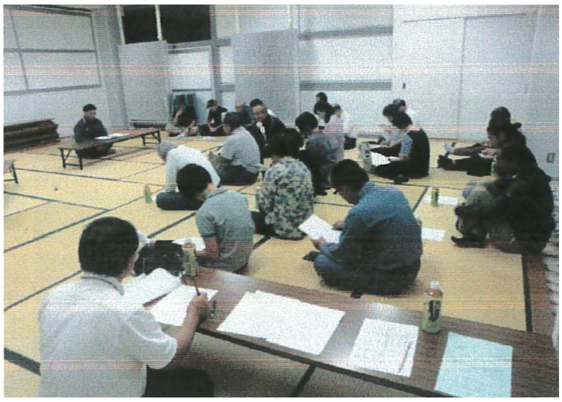
地域での防災訓練



緊急医療情報キット

第 5 地区では救急搬送や避難などの緊急時に役立つ情報をまとめた「命のポケット」を各世帯に備える事業を行った。

情報記入用紙に緊急連絡先や既往歴、アレルギーなどの救命に対応する情報をキットに納め、到着時の救急救命士などが目につきやすい冷蔵庫などへ磁石等で貼り付けておき、救急搬送時に役立てようというものである。



説明会の様子

9 月 19 日に 27 人の代表者等が集まる合同説明会を行い、地区の説明会で各世帯へ配布した。

【大野地区まちづくり推進協議会】

『亀山東側斜面整備事業』

大野地区まちづくり推進協議会では、昨年に引き続き亀山東側斜面の整備を行った。

大野地区の花いっぱい運動の一環として、

5月20日から11月21日まで花壇を整備するとともに、まちづくりの委員同士の交流の場として行っている。

シバザクラの植栽

4 月に開催した常任委員会において、亀山東側斜面の状況を再確認し、より良いものにするために何をしたらよいのかを検討した。5月の整備作業で現地を見た上で部会ごとに整備案を出した。この案を下に、シバザクラが生育していない部分の植栽を専門家の指導の下に行うこと、チューリップやスイセンの植栽を行うこと、柳廼社に続く遊歩道の樹木の枝切りや管理を行うことを年間活動として盛り込み実施した。

整備完成の全景

特にシバザクラの植栽に関しては乾側地区を中心に活動するシバザクラの里実行委員会に指導を仰ぎ、防草シート張りや、苗の植え付け方法を習いながら作業を行った。参加した委員は活動する中で、互いに話をしたり、力を合わせたりすることで延べ212人の委員同士の交流が図られた。また春以降も活動を続けることで、環境美化の維持と地区民の交流につながるものと考えられた。

【大野長生会】
『世代間交流・介護施設交流・健康ノルディックウオーク』

大野長生会では、門松づくり、お楽しみ会、かき餅づくりを通して子供たちと共に楽しく交流することにより、昔からの風習や手作りのすばらしさを学び、シニア世代と楽しく話をする事業を8月5日から翌年1月27日まで述べ188人の参加者で行われた。

世代間交流

大野きらめきハウス秋祭りでは放送設備と縁日コーナーを担当し、福祉関係の地域団体や近所の高齢者や子供たち等大勢の人と交流した。また、開成中学校の善意銀行の生徒たちとヨーヨーづくりで交流を行った。

ノルディックウオーク大会ではシニア世代の健康づくりや生きがいづくりを推進するとともに、健康寿命を延ばすことを目的として事業を実施した。朝から晴天に恵まれたことで楽しく活動ができた。

ノルディックウオーク

4　事業の成果

昨年度に続き、各種団体連絡協議会で交付金事業に取り組んだことにより、各団体における現況や課題の整理につながった。

大野地区まちづくり推進協議会や大野長生会では、事業に向けた話し合いが、課題の共有や会員間の交流につながり、組織の活性化を図ることとなった。

区長会においては第1地区から第6地区までのうち3団体が、それぞれの地区内の現状や課題などの情報を共有し、身近なところから地域づくりを考え実践する機会となった。

特に複数の行政区がまとまって事業を行った地区では、会議や作業等の機会にお互いの課題の共有や情報交換が行われ、それぞれの地区における活動内容の拡充が図られるなどの相乗効果が見られた。

5　今後の展望

本年度の活動については、昨年度から継続して実施した団体や取り組みを拡大した団体、そして新たな内容へ取り組んだ団体などさまざまであった。

各団体において解決に向け取り組みたいと考えている課題の内容については、それぞれが異なり、共同で取り組むような手法を導入することはなかなか難しい状況である。

しかしながら、今後、各種団体連絡協議会において検討を進める中で、複数の団体で協力して取り組んだほうが効果的であると考えられる場合があれば、互いに連携を取り進めるなど、本事業の更なる活用方法を検討しながら､地域の課題解決へとつなげていきたい。